京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

發行兼編輯人 高木久馬太郎
印刷人 松久調一郎
發行所 京城新報社
仁川支局
東京支局

●冥府の伊藤公へ（五）

恐々縮々庵主人

閣下生前に於ける閣下は能く抱擁撫の寛典を垂れしかも閣下の在るところ酔に女わり之れ遊し英雄色を好むの顰評されば閣下が統監として任に朝鮮に來るやさらぬだに華侈殷賑を極めし京城の花柳界は宛かも他村の祭典に鄰村の神輿の擔き込まれし如く一層殷賑の度を高め銀燭輝く青亭の中燕觴香る高樓の裡日夜管絃の聲を聞かざるはなく人をして京城花柳界の盛事を羨ばしめ從つて市中の景氣も一般に振ひたるの觀ありたりされど這は獨ち閣下一人の爲せし結果には非ず所謂當時に於ける一般官吏の風習が花柳界に足を投ずる事の比較的恥づべき業と思はざりしと一は寛大なる閣下の襟度に甘んじて斯く品花紗紅の艶事に耽けりしが爲めなり陪鑑しむべきは朝鮮官の惡習自己の分を弁へず徒らに英雄の顰に倣ひの風流を以て閣下の風流事に倣ひたる結果習性となり遂には官紀弛緩風紀紊亂の弊を醸し朝鮮に於ける官吏は一般に奢侈贅澤なりとの惡評を買ふの餘儀なきに至りぬ。

●閣下寺内伯は謹嚴方正の人なり誠に品行の宜しき仁なり閣下が徳壽樓上に飲して酒を酌み美妓と戯むるゝ時は伯は愛孫を擁し夫人と膝を交へて慈愛もく笑語の入るの時なり閣下と性情を異にせしや言ふ迄もなし而して伯が四十三年七月統監の印綬を帶びて京城に來るや伯は何事を措し置いても先づ官紀の振肅と風紀の刷新とを期すべく一般の官吏に對して勤儉貯蓄の美風と家庭の善俗とを奬勵し一方伯自らは夫人の渡鮮を促かして之れが模範を作りたりされば從來奢侈遊逸に耽りし一般の官吏は宛かも昏睡せる身体に刺戟劑を與へられたるが如く愕然として覺醒し同時に昨日の非を悟り今日の是を知り倫花柳の巷に足を入るゝものなきに至りぬ

●閣下言ふを止めよ「女ならでは夜も明けじ」と之れ蓋し閣下を標準としての豪語なり奈處群官の靈如何で閣下の顰に倣ふを許さんや斯くして一般官吏の風紀は伯の謹嚴により振肅されしと雖も其の反面に於ては勿ち花柳界の寂寞を來し一般の青樓は俄かに絃歌の聲を絶ち樓主は勿論大小幾多の紘妓は腕を拱いて青息吐息を洩らすの悲境に陥りたり榮枯盛衰の理亦如何ともなし難き乎（三十一日午後二時稿）

雑報

●金堤の發展　全羅北道金堤は四年以前には内地人八名なりしも近年非常に増加し今百六十餘名となりし同地方は東津江平野を控へ水田、畑、山地等調和し水利も比較的宜しく交通は四通八達にて各邑内には三四里或は五六里にして其中央に位置を占め殊に湖南鐵道本線停車場豫定地にして目下移住民も東津江平野へ多く入り込み將來移住地としては最も適當にして且つ大發展有望の地と云ふ（金堤特信）

●金堤地方の農作　今年稲作植付時期より天候順當にして山間の水田は一部植付を了り其後暴風雨にて多少の水害に罹りしも天候挽回し土用中より漸く穫穀教害作物も大に取直し近來なき豊作として地主農家一般に喜び居ると云ふ（金堤特信）

●大輪サフラン種球の分與　長野縣下高井部延徳村の農園に於て多年栽培せる宮益サフランと稱するは藥用として栽培なすも多大の收益あるのみならず盆栽としても珍花大々輪咲なるが故に花界に賞讃せられつゝあるが本年も希望者にて送料荷造費共實費二十五錢を送るへには花性大小取交せ十球入を何處迄も送り届ける由を本社へ通信ありたり（栽植は九月中旬迄に植附する時は十月上旬より天長節後迄不斷開花する由なり

雑録

●銃獵に就て（三）

芳洲投

一、無煙火藥を裝藥するときは火藥罐に銃口徑に依り定量明記しあり之に因るを安全とす黑火藥の半量を標準とするものあり斯は甚だ危險なり黑火藥は人々に依り增減あるものなればなり

一、射擊の際目的物を見付たるときは獵者は其の要の位置を知り扇面形の郭内に人影の有無を目定め若し人影あるときは乍遺憾之を逸すべし萬一誤りたるときは獵獲の快快に反し幾千倍の苦痛なるやを想ふべし

●失態の部

一、成る獵者小鳥を驚たんと匍匐して向い後方に在る銃口を握り引寄せんとしつゝありしに引金に草木の懸りてズドンの一聲に自己の腰部を打貫きたるものあり

一、後裝銃にて鷄頭の卸し在りしにも拘らす舟に乗り移の際動搖の爲め銃を杖突きたるとき反隱の爲め發射し自己の生命を失ひしものあり裝彈を抜き取らさるに基因するものならん

一、獵士あり路側の小柴ある斜面型の堤防にて雉子の下方へ飛び出でたるを射擊せんとし旅客の人力車にて來懸りしを射擊せし人あり獵士山を見ずとは蓋し之れの謂乎

一、二人連れの獵士山に入るとき東西に分れ后ち笛にて寄せ雉子を爲しつゝあるとき笛に答へつゝ近寄り來るものあり雉子ならんと草木の動揺を目的として射擊せしに手答あり駈付け見れば同行の獵友なりしことあり此れ實物を慥めざるに基因するものなり

一、三人連れの獵士あり山の中腹を歩みつゝあるとき雉子の飛出に逢ひ中なる獵士之を射擊せしに鳥には當らず先なる獵友の綠廣の獵帽を擊ち飛ばしたることあり此れ獵欲に驅られしに基因するものならん

外事一束

△摩國　問題に對する獨佛新聞紙の論調穩和に傾く解決近きもの如し或通信に獨佛協約なりと曰く獨は摩國の政治的野心を抛棄し代償として經濟的利益に南阿に於る領土の讓與を受く可しと

△維納　駐剳英大使の排獨的言說新聞に顯れ獨民激昂し大使窮す不謹愼千萬

△葡國　共和政府は廢帝財産の引渡し外人財産の賠償を保證し近く公認を得

△獨紙　政府の意を受けて曰く今後二十年歐州の仲裁者となる頃英佛自滅せん獨逸の仇敵は北海の彼岸にありと云々と英獨睽離益々甚しからんとす

△布設　計畫進渉す、寛東騒動の憂わり水雷艇を急派す、京奉鐵復舊せりと

△佛國　首相演說す曰く佛の威嚴と權利とを全ふする名譽ある平和に盡すと

△西班　牙は佛が摩國保護權を得可しと想像し不安を感ずと

△東郷　大將晩香坡に歡迎せられ且體量二千斤の肥馬を贈らる八千圓と稱す

△清帝　清暦七月より就學す、廣西線運費五百萬兩借入運動あり、北京電車



文苑

○清涼里

碌々庵

清涼里の清涼里の
林の奥に咲く花は
鬼百合か薊か女郎花か
赤い、血のやうな曼珠沙華
あかあかと照らす夕日に咲きまする
あはれゆかしの曼珠沙華
愁ひの華かなぐさめか
鳥よ鳥よ青鳥よ
れ墓の花は咲むなかなげく
花が散つたら死人がなげく
清涼里は虫の聲とともに月の悲しき里に候
君若し松風しげき林の小徑を行けば二つの墓を見出すであらう、陵殿高く芝草深きは閔后の陵、新しきは嚴妃の墓と知りたまへ。





召使れ初

第百三十六回

黒法師

「助蔵様、よう打ち開けてお話しなされました、これでお家ぞのお身の明りも立ち、お嬢様のお顔に掛る黒い雲も晴れるでござります」と鶴兵衛は活々したる聲、「私も年頃の倅を持て居りまするが、いやも今時の若い者は、兎角實より名を取りたがるに困ります」

「其處で助蔵、」と助八は閑に力を籠め「此罪過什麼として償ふな」

「取り返し付くまじき不調法、切腹致すより外ござりませぬ」

「什麼ぢや切腹——切腹するといふか、何さまの」と助八は審に「そなた

おやめ」

一身の辯解には、その他に理もあるまい、なれど一身ばかり消らしても、現在妹、妹が大恩を受けたお方、それ等の方々のお身に掛る御難儀解けずば、そなた一分立たぬで無いか」

「ともござりませう、なれど一たんの思ひ違ひ、斯程不調法致しては、人間へ面も出されませぬ、由て私……」

「そなた死ねば好いと存じ在るか、命は終つても名が殘る、名の恥辱を什麼で雪ぐ」

「は、さらば切腹も叶ひませぬと……」

「澤野どの毒計、生口の證據となつてた道どの身を消らするの外無いで無いか、すれば大切の命、滅多には捨てられぬ」と助八はきつとして「一たんの恥辱を忍び、百年の譽れを殘すは此處、まさかの時は濱田様お屋敷へ駈け込み、澤野殿お頼み、斯様々々と有のまゝを言上するぢや、お家ぞ進てゝに立ち、お家ぞの疑ひ此處に立つ、屈竟の手術

「拙者只父上命令に從ひまする」と助蔵は思ひ詰めたる聲なりき、彼は出世の玉を掴まんとして、思はずもこの深き陥穽に入りたるなれば、木より落ちたる猿の如く、只まぢ〳〵と默居たりき

「いかさま、旦那の仰せ御有理でござります」と鶴兵衛も歸心、若江様、好いた土産持させられてござりまするな」

「斯らいふ事あらうとは、園尾様御推量もあらせられた氣でござります、お家の名を卑に落せば、お君も同罪、斯くては澤野様一分も立ちませぬで、まづは有耶無耶の闇の中に、事落着とござりませう、斯様に首尾好う參るといふも、お家ぞの孝心を神々御憐みあらせる、からござります」と若江は嬉しげに云ひ掛けて、「存外御邪魔、私これで立ち歸り一伍一什園尾様へ申し上げるでござります、お家ぞの罪科につき、何れは御詮議、意地悪い爲され方あらせられうと存じまする、その時は助蔵様、現澤様入とならせられて、お家ぞのお身の御守護、只管願ひ上げるでござりまする」

若江は鬼の首にても捷つる如き態度、なりき、いそ〳〵として立ち去りぬ、人間後はお鶴の涙、助八張り詰めたる氣も折れて

「暫時は謹愼、外出はよつて罷らぬそなた小身者の家に生れて、一足飛びに出世しやうなど、有らぬ望みを起したるが過失、遂には斯様の不始末を醸す、兩刀佩びたる身を以て、二君に仕へ、高祿を戴くがいかほどの譽れになる、一生を十人扶持に終るとも、胸の底に忠義光らば、千石二千石の御知行に有り付くよりすいと增ぢや、今にも濱田殿お屋敷より御召あらば、その心をもて仔細を陳述、た寮を暗黒の底より救ひ出す工夫せねばならぬ、それが切ての罪滅しぢや、きつと心得」

東京電報

▲法制局長官交迭 八月卅一日付を以て左の辭令ありたり

法學博士 岡野敬二郎
正四位勳二等
任法制局長官兼內閣恩給局長敍高等官一等
兼任東京帝國大學法科大學教授敍高等官二等

法制局長官兼恩給局長 正四位勳一等 安廣伴一郎
依願免本官並兼官

▲拓殖總裁親任式 九月一日宮中に於て元田肇氏の拓殖局總裁親任式擧行せられたり

▲各大臣の登廳 新任各大臣は八月三十一日登廳各大臣より事務引繼を受け各高等官を集めて親任の挨拶を爲せり

▲鐵道院吏決議 後藤氏は神戶より長谷川西部管理局長を召致し八月三十日午前八時より遞相官邸に平井副總裁、古河中部管理局長、山口東部管理局長と協議の結果前內閣に於ける鐵道政策を後繼內閣が若しも踏襲せざる時に於ては鐵道院は總辭職を爲すべしとの決議を爲したり

▲鐵道院總裁親任式 九月一日宮中に於て左の通り親任式擧行されたり

兼任鐵道院總裁 內務大臣 原敬

▲大浦子と中央黨 大浦子は中央黨を公然解散する事となり來る三日黨員を召集し今後の政策に關し訓諭する所あるべし

▲地方長官召集 新任內務大臣原敬氏は新內閣の施政方針を訓示する爲め九月廿五日頃地方長官を東京に召集す

▲押川次官留任か 押川次官は大浦農相と進退を共にし辭表を提出したるも牧野新農相の懇請に依り多分留任に決すべし

▲石井次官進退 石井次官は更迭の噂あるも對外交涉の縺未だ片付かざるを以て多分留職し近々行はるべき大公使更迭と共に出でゝ在外使臣となるべしと云ふ

▲內田外相召電 西園寺首相は外務大臣に決定せる內田駐米大使に對し召電を發したれば今月二十五日頃迄に歸朝すべし

▲內務次官後任 內閣更迭に伴ひ內務次官の後任は床次地方局長たるべしと傳へられたるも形勢一變し地方長官中の少壯者より拔擢する事に決したれば床次、井上、小橋、水野、湯淺各局長等は何れも留任に決したり

▲大島都督外遊期 曩に歐米諸國軍事並に殖民地視察を命ぜられたる大島關東都督は中川步兵大佐以下秘書官を隨へ來る十三日午後橫濱解纜の賀茂丸に搭乘し出發明年五月二十四日敦賀上陸歸京の豫定なりと

▲江藤未亡人賜金 佐賀市居住の故江藤新平寡婦千代子刀自は本年六十九才の高齡に達し多年貞節を持し追々衰弱に赴く哉 皇后陛下の御聞に達したるを以て御救恤の御思召を以て金三千圓御下賜の御沙汰ありたり

▲米作第一回豫想 農商務省は九月四日頃本年米作第一回豫想を發表する筈なり

雜報

●優渥なる御諚 李王世子殿下には一日陸軍中央幼年學校に御入學に付八月三十一日　天皇陛下より御菓子一折を賜はり且つ古谷御用掛を以て左の如き優渥なる御沙汰を傳へられたる旨昌德宮及德壽宮に來電あり

殘暑激甚の候なれば自愛して益々勉勵すべし

●王世子の御入學 李王世子殿下には過日陸軍中央幼年學校第二學級の編入試驗に御及第され豫定の如く九月一日御入學の手續を了し學科の教授を受くる事となりたるが同時に御宿舍を幼年學校寄宿舍に移されしと云ふ

●寺內總督歸期 滯京中なる寺內總督は外波少將兒玉秘書官の一行は十月上旬東京發歸任の筈

●朝鮮教育令公布 去月二十四日勅令第二百二十九號を以て東京に於て發表されたる全文三十條より成る朝鮮教育令は一日の官報を以て公布されたり

●長官會議休會 一日は長官會議例日なるも都合により休會明二日開會すべし

●移民募集成績 既報の如く東拓會社第二回移民募集締切期限は八月三十一日なるが同日迄に各市町村役場に申込むものは受理すべく而して三十一日迄に會社の手に受理せし戶數は七百四十七戶なりといふ尚右移民勸誘のため富山石川德島地方に出張し八月中旬歸任せし酒井社員の談に依れば一般に於て成績良好なるも德島地方は今回は扨て置き次回に於ては意外の好成績を收むべしといふ而して其原因は阿波、麻植の兩郡を洗ふ吉野川が從來洪水每に氾濫し附近の田畑を害すること夥たしく爲めに改修工事を爲すの必要あり依つて政府にては今春兩郡に跨る田畑五百町步を買收し右改修工事を爲す事となりたるより約五百戶の農民は爰に職と失ひ他に方法を取らんとするの折柄なりしかば早速之れが勸誘に應じたるも田畑の買收金が本年末頃ならでは下附の運びとならざるより已むなく今回の募集には應ずる能はざるも第三回には殆んど應募すべく而して今回は同地農民の青年團十戶丈申込み尙近々の中右兩郡々長及び有志は移住地實地視察のため渡鮮する豫定なるが板野郡那賀郡の農民も第三回の募集には應ずべしとの事なり

●大久保大將別宴 大久保大將は六日出發歸朝に就き八月卅一日午後六時より官民の重なるもの四百餘名を龍山新築官邸に招待し盛大なる留別宴を張られたり今其の光景を記せば來賓山縣政務總監、松永中將、宇佐川總裁、各部長官、小宮次官、國分檢事總長、明石司令官、津輕事務官、佐竹男、關寺檢事正、山形藥師川兩中佐、古城民長、佐々木、久芳、齊藤、永谷、中野、玄角氏等、各課長、新聞通信記者其他軍師團の將校等は定刻馬車又は人車を驅つて續々來着し大久保大將は副官を隨へて玄關に出迎へ來賓は將校の案內にて官邸の各室を縱覽し聽て六時半に至り前庭に設へし[illegible]にて[illegible]一林中の[illegible]夫）歐警の夢、ヴァイオリン、滑稽茶番、一夜田藏其他劍武術、體操式カッポレ等の餘興あり、七時煙草、ビール、ソバ、ウイスキー、氷菓子、果物其他數種の模擬店は開かれ、八時食堂を開かる、大久保大將は立つて左の挨拶を述べられたり

私は今回停年に達し近く歸朝致しまするに就き永々御厚意を受けました爲め御禮を兼ね惜別の情を表する爲め粗宴を設けましたところ斯く御來臨を辱ふしたるは旅路の御餞以上として深く感謝する所であります甚だ粗末にて何等の用意もありませんが、微意をお酌み下されて緩々一夕の歡を盡されん事を希望致します

と述べ來賓の爲めに三鞭の杯を揚げて健康を祝されたり次で山縣政務總監は來賓を代表して左の答辭を述られたり

今夕は御留別の爲め大久保大將閣下には盛宴を張られまして一同を招待下されましたは一同の深く感謝する所であります謹んで閣下の御健康を祝します

斯くて九時主客十二分の歡を盡して散會したり因に朝鮮側よりは公爵李埈鎔以下中樞院顧問貴族等數名出席したり

●本田所長談 東京農業講習所長本田幸介子は今回釜山に上陸後馬山にいたり村井農場を視察し夫れより大邱水原を視察して京城に來り龜島東籍田の農場及び京城作蠶場等を實視したるが何れも豫想外の成績好く內地の養蠶業に比して遜色なきを認めたり由來朝鮮は氣溫の工合養蠶業に適應し方法其の宜しきを得ば優に良好なる成績を收め聽て朝鮮の產物たる米大豆と匹儔して國產として海外に輸出さるべきは言ふ迄もなき所なり殊に朝鮮家屋は蠶兒を飼養する上に於て極めてよく日本の如く火鉢又はストーブの火力を以て溫度を取るとは其の差大に異なれり而して桑の栽摘も赤土地に適應せるが這は喬木仕立てにしても灌木仕立にしても差し支へなし唯世人も知る如く朝鮮の河川は年々洪水あるも破壞のまゝに任せ改修工事と施さゞるため少しく豪雨等に際して水量增加する時は忽ち附近に氾濫して耕作地を害し爲めに年々凶作の不幸を免れざるが斯かる所には宜しく喬木仕立の桑を栽培するを要す要するに予は將來朝鮮に於ける養蠶等に囑目し一層視察研究を積み而して後意見を發表すべし云々

●日韓瓦斯總會 日韓瓦斯電氣臨時總會は八月廿八日東京青年會館に開會岡崎專務取締役會長席に就き左の諸議案を附議せり

第一號 監查役改選の件
監查役金時鉉氏は本年七月廿九日死亡監查役伊藤幹一平澤道次の兩氏任期滿了したるに付き改選し當分の內監查役の員數を二名に止むる事

第二號 資本金增加の件
會社資本金三百萬圓に金三百万圓を增加し資本金總額を金六百萬圓とし株式總數を十二萬株と爲す事
一、增加資本金三百萬圓は之を六萬株に分ち明治四十四年十二月一日現在株主をして其所有株式一株に對し新株式一株を割當て任意引受を爲さしむ事

第三號 本店所在地移轉の件
現在の京城支店を本店と爲し現在の本店を東京出張所と爲す

右の中第一號第二號第三號共原案可決し增資に伴ふ定款改正も異議なく監查役は四名以內に改正し元監查役金時鉉遺族には六百圓以內を贈ることとして散會す

●二百十日の天候 二百十日前後の天候に就き觀測所員の談によれば此の數日來の氣壓配布は千島諸島及本州朝鮮に亘り一體に高氣壓の占むる所となり太平洋に顯はれたる低氣壓は多くは西或は北西に進行して南滿地方に入り朝鮮は差したる影響もなく只二三低氣壓の北西方又朝鮮海峽を通過せるものありし爲め南部及北部に多少の降雨ありしに止まり目下の模樣にては九月二日の二百十日の天候は平穩なるべし內地も同樣暴模樣は見へざるも只大平洋より來りたる深厚なる低氣壓は三十一日午後石垣島に襲來し七百十耗以下の示爲にして近來稀有の猛烈なるものなるが昨紙の臺灣の倒壞六千戶死傷者百餘名を生じたる大暴風は全く之れが爲めなり該颶風は北西の進路なるを以て支那內陸に入るべく目下の所にては朝鮮には甚しき影響無かるべき見込なり

●八月中金融 京城 八月中の金融は例の如く閑散を極めたり元來朝鮮の商業は全く農產物に左右せらると云はんか十月に入れば各々收穫物を賣却したる收入を以て一年間の食物や衣服を買入るゝと商家の冬物仕入と相俟つて次第に資金移動を見繁忙を來すと雖も其前は米及雜穀の端境期とて農家一般に手許金缺乏し需要起らず又冬物仕入時期にも早きを以て金融閑散の狀態を呈するは蓋し已むを得ざる所なるべし云々（遠山朝鮮商業支配人談）

●群山通信（承前）

◎大凡事物は何事に限らず之を使用するものゝ意思如何によりて其結果善ともなり惡ともなるものである元來米穀取引所なるものは社會の公共的機關で文明國にありては商業上實に一日も缺く可らざる有益なる機關である然るに從來內地の米穀取引等に就て見るに多くは一部橫暴の徒の私利私慾を恣にする罪惡的の道具に使用せらるゝか左なくば黨同異伐互に鎬を削り徒に名利の奔狗となり忠實に其本分を全したるものは實に曉天の星の如しで現に東京及大坂米穀取引乃至其他の地方の米穀取引所の紛擾の如き比々皆然り前鑑遠からず目前にありである此等は皆法の罪にあらずして寧ろ人の罪に起因せしものである則ち取引所設立の趣旨を沒却せるに起因するものである吾人は今日當港米穀取引所設立に於て要望する點は實に玆にありである一言にして云へば乃ち模範的米穀取引所を作り朝鮮米界の中樞となり以て四方に呼號し名實共に大米產地の米穀取引所として重きを中外に爲さんことを望むや切なりである（八月二十七日發）

寄書

故曾禰統監の追悼會に就いて 漢江生

京城新報記者足下、今や殘暑甚しき此際に當つて足下孜々として筆硯に從事す之れ皆邦家社會の爲め生をして轉た感謝の念に堪えざらしむ之れを聞く足下は如何なる問題に對しても公平無私、是を是とし非を非とすと、然らば問はん足下が故曾禰統監に對する感想や如何。

之を聞く足下は故曾禰子が生前統監に任職中極めて峻棘なる筆鋒を以て反對したりと、思ふに足下の反對や個人なる曾禰子に對せるに非ずして子が統監としての政策に存す、而かも足下の反對や實に子に對しての激勵の意味を有す。左もあらばあれ子爵は常に死近者に語るに京城新報の言の聞くべきを以てしたり。

記者足下、足下は去る二十九日の貴紙上に於て故曾禰子を敎へ日韓併合功勞者の一人としたるが之れ極めて當れり思ふに故伊藤公の後を受け現總督に先ち故子爵の任つて準備を爲すなくんば焉んぞ彼が如く併合の事易々として成らんや、況んや現總督の實行せんとする政策の如き之れ皆子爵の遺策を踏襲せる者、足下が是を是とし非を非とする見識よりして子爵の功勞を敎ふるもの豈夫れ偶然ならんや。

京城新報記者足下　光陰矢の如く子爵薨じて已に一年、來る十三日は之れ故人の一週忌に當る、此時に當つて余や故人を思ふの情極めて切、微力當らずと雖ども同感の士と謀り故子爵の爲に追悼會を催さんとす情に厚き我京城の官民は故伊藤公の爲には勿論故梅謙二郎、故丸山重俊氏等の爲に已に追悼會を開く、故曾禰子の爲に一週忌の當日追悼會の開かるべきは無論なり、信ず只だ夫れ人や生者に厚くして死者に薄し、好んで權勢に赴くものはあれど靜かに霊魂に對して禮を盡すものは尠なし、嗚呼人心日に之れ危し、余や不肖と雖ども故子爵に對して忘禮の人とならざらんことを期す、敢て拙文を草して足下の座右に呈す不盡

●地稅納付者と法令 從來地稅納付の直接義務者を小作人とし不納の場合に於て地主をして納付せしめ來りたるも斯くては徵稅上頗る繁雜なりとし今後適當の時期に於て法令の改正をなすべき本年秋期分の地稅より地主をして納稅せしむる事に勸誘すべき旨今一日寺內總督より各道府郡に訓令したり

●昌德宮送迎宴 李王殿下には來る四日上田新任軍司令官の着任を待つて同日正午より新舊軍司令官を昌德宮に招待して迎送の盛宴を張らるゝと云ふ

●李太王の誕辰祝 來る九日は李太王殿下の誕辰に相當する由にて此日には德壽宮に於て盛大なる祝宴を張らるゝ筈なりと

●宇佐川總裁招待 宇佐川東拓總裁は二日午後六時大久保大將を京城ホテルに招待し送別の宴を開く由

●水害成績 地方農事視察のため目下忠淸南道方面を巡視中なる農商工部囑託技師の報告に依れば水稻は何れも豐年にして浸水地に於ける腐死又覆砂川成り等となりたる面も併せて平年作以上にて神力（內地種）の好評判なるは地方一般を通じて非常の好成績を收し就中南西部浸水地に於て神力の水害に耐ゆる性質は之れを朝鮮種に比すれば數年來の經驗にて鮮人農民の感想を最も深からしめたるに依り明年は作付反別も非常に增加の模樣なり今後四五年を經ば收穫にも著しき增收を見るべしと云へり而して鮮人農夫の語る處に依れば神力の收穫三石二升に對し朝鮮種は一石八升なりとの事なり以て其成績を知り得べしと云ふ

●孔德里監獄工事 孔德里に新設さるべき京城監獄は一日總督府會計課に於て指名入札をなしたる結果約廿萬圓の價格にて松本組に落札したるが敷地は全部一万六千餘坪にして先づ之れが地均をなし更に監房其他附屬の建築となす筈にて多分四十六年上半季竣工を見るべしと

●京城監獄作業狀況 監獄に於ける作業の種類は官司業受負及依託業、監獄傭夫の三種に分ち主として受負及依託業を採用する方針を以て施行しつゝあり試みに明治四十三年度の內受負依託業に使役したる人員は三十一萬二千三百十四人にして就業者百人に付き七十一人の割合に當る就業人員の增加を圖ると共に一面に於て製產品の增加や技能の進步を促し且勤勉の習慣に馴致せしめん事を期し作業獎勵の方法を設けて實施したるに頗る良好なる成績を現はし從來一名の作業課程修了者をも見ざりしが實施後は續に多數の課程修了者を出し漸次增加の傾向あるを認むる迄に至れり就業者に對しては規定に基き每月作業賞與金の計算をなし釋放の際之を給與しつゝあり而して工場の現在坪數は實に僅少なるを以て全囚の十分の一に對する就業の場所に充つるにも足らざる狀態に在り從來作業が甚だ振はざりし所以のものは工場の狹隘なるに基因したるに鑑み近時受負業に在ては成可く受負人をして工場を提供せしめ或は天幕の下に於て就業せしむる等の方針を採り漸く本年度に於て本監に約百五十坪の工場一棟、春川及仁川の兩分監に各約二十坪の工場一棟づゝを增設する計畫なるを以て之が竣工の上は今日の不便は多少之を除去する得べし

●島井理學博士の入京 東京帝國大學の人類學講師島井龍藏氏は八月卅一日再び入京せしが二三日中に出發長白山探險に向ふべしと云ふ

●敍任辭令

任朝鮮總督府檢事 檢事 [illegible]
朝鮮總督府檢事（高等官[illegible]）[illegible]
任同判事（高等官三等）[illegible]
陸軍三等軍醫正 小野純一
任同道慈惠醫院醫長

公人私人

▲島井龍藏（理學博士）三十一日山本旅館
▲石川鐵平（砲兵少佐）同京城ホテル
▲野田柄雄（檢事）同[illegible]
▲澤來太郎（代議士）同[illegible]
▲阪上貞信（群山民長）仁川行
▲小川徹郎（憲兵中尉）[illegible]
▲三明諒夫（遼東新報[illegible]）同浦尾旅館

▲京城手形交換高

九月一日	金	[illegible]

▲治外法權▼ 三十一日夜大久保大將が龍山司令官官邸に於て留別の園遊會を開かれた、食卓に於ける主人大將の[illegible]政務總監の辯辭共に垢拔[illegible]しと雖も良く禮を盡し[illegible]と聞かれた▲設備の完[illegible]の面白かりし、玆に多[illegible]云はざるべからざるは[illegible]出來てる事▲之れを聞[illegible]督も任が陸軍技師宮崎[illegible]一切の費用は三十萬圓[illegible]匠が獨逸建築士デラ[illegible]の事▲本館洋風の建築[illegible]師、間數が二十四、洋風[illegible]莊嚴たるものを洋風の[illegible]とす、其他本館の特色[illegible]する事と便所の多い事[illegible]苦心の存するところ、[illegible]殿が割合に狹まい▲之[illegible]近所にある五十万圓の[illegible]博士の設計だが、ツノ[illegible]ウだい逆も逆もクラベ[illegible]玆に寄ふべきは我貴乏[illegible]團の大金を掛けて總督[illegible]得ぬ二箇の官邸を建て[illegible]八十萬圓と云へば朝[illegible]四千圓で朝鮮銀行への[illegible]い、政府はモ少し金を[illegible]にしたい▲乃木大將が[illegible]巡查の憲兵らしい[illegible]兵らしいのは乃木將軍[illegible]ルすかつたとの事だが[illegible]家の護衛者であつたの[illegible]拓殖局總裁に任ず[illegible]せざるも見識に於て前[illegible]萬々、況んや柴田とて[illegible]には非ず▲大邱の電氣[illegible]に於て騷擾を極む、[illegible]決して公明ならず▲今[illegible]即決の破棄されるもの[illegible]は何の面目あるか。



京城藝妓の半生 元京城券番の小鈴事 淸華亭 鶴羽(二)

彼れ小鈴は無情な父親の爲めに一度ならず二度ならず三度まで憂き苦勢をせねばならぬ[illegible]親ともあるてど[illegible]父の爲めに骨までシ[illegible]と思へば徐ろに前世[illegible]かりしかも思はれて[illegible]多かつた、夫れかあ[illegible]ら出た當時より氣も[illegible]ブラブラ病最初は氣病[illegible]て居た所不思議にも[illegible]を見ざる事四ヶ月餘[illegible]何した事かと醫

者の診察を受けた結果が

姙娠と鈔つたことは明つたが夫れ

が何人の胤であるかと云ふ事に[illegible]不明でこれかと[illegible]無い、緩分當皆[illegible]泣いた例があらう[illegible]りて自然に勝れ出し[illegible]事實だ、夫れ然り豈[illegible]彼れは水茶屋から[illegible]隠れないので客を取[illegible]爲め一人も關係し[illegible]指折り數へた結果

京城産で木下君

廣島土産で木下君

相違ないこと分明し[illegible]ましたもの〻考へて[illegible]木下君に此の問題[illegible]と彼れは一度で[illegible]ックック身の不[illegible]を嘆いた、と云つて[illegible]なし寡一父親の耳に[illegible]にか恐ろしい事を言[illegible]時東京在住中の木下

君を訪れて處分方を泣き着

[illegible]はずに快諾して成る[illegible]て分娩したのが死

[illegible]は虚むが易いとは豈[illegible]酉して歸辯の上に[illegible]つたので木下君を伏

し拜んで博多へ戻つた、だが頭が輕くなつた所爲だらうメッキリ氣も輕く遂氣もさし　苦にならなくなつたのみか然る可き男が一人位は有つたとて格別罰も當るまいと云ふ如な氣になつたので早速詮索に取り掛つたが夫れ此れする間に其の年も暮れ明けて芽出度き四十四年の初春早々引つ掛つたのが九

州名代の大金持太助さんの實弟貝島の太次郎

(當時五十有余)と云ふ好爺であつた、古諺に曰く老人は若い女に親切だと古人我れを欺かず太次君小鈴が精力絶倫にして而して其の全力を盡したる待遇振りに一切夢中に上り詰めた。

●伊藤組内の及傷

△主人を斬殺すとて

本町三丁目伊藤組內に及傷事件ありたるを記さんに加害者は京城[illegible]町居住廣島縣平民伊藤組車夫林正雄(三十)及同町廣島縣平民無職元同組車夫越知常一(二七)の二名にして午後三時頃右二名は伊藤組帳場司馬之助及主人伊藤友松の二人を相手取り喧嘩を仕掛け踏み殺すの切り殺すのとて大立廻りを爲し傍らに居たる車夫某は主人や帳場が危險と思ひ木片を以て防禦したるより加害者等は八寸餘の白鞘を抜き逆手に握り切り廻らんとせしを數名の車夫二名を取り巻き抱き止め兇器を奪ひ取りたるが其の時越知常一は西部を負傷せしが此急報に接し本町派出所より警官二名出張加害者を本署に引致したるが原因は常一は八月中旬迄車夫として雇はれ居るも常に品行不良にて警察の厄介になる事度々にして伊藤組の名譽を毀損するより解雇せられ林も此の頃亂暴を働くより解雇す可しと命じたるより漸く暴行するに至りしものと目下取調中

●無情男に心中立

▽情けない程可憐しい

原籍新潟縣西蒲原郡燕町生れ久保田常松(二七)は幼少の頃より素行修らずして三十八年頃北海道小樽に行き同住の江町本田倉之丞方の事務員に雇はれたるも間もなく退ん出て同町福田旅館の帳場となり又は刈田呉服店に奉公中四十二年三月同家より數十圓を橫領し前記福田旅館の養女三村ふさ(二)こと情を通じ夫婦の約束をなし互に手に手を取て駈の道行きをなし後志國岩打郡小澤町に至りたるも好きお法の立たざるより同郡[illegible]町旅館に夫婦共奉公なし居る內久保田は又もや同家の女中佐々木はま(十八)と情を通しふさを置去りにして二人諸共駈落ちしたれはふさは世の旅馴いぬに怨る悲慘な目に合ひたれは淚に暮れ居たるが間もなく同町村上啓二郞方に潛伏し居ると聞き尋ね行きてさん〳〵恨のたけを述べたら上三人三ツ巴と成て去六月六日仁川に來り花房町小島下宿屋に投宿し佐々木は毎日兩手に花と眺めて居たるに段々懷中空しくなりたれば近頃ふさは旅館の女中に住込み佐々木の小遣を貢ぎ心中立をして居るとか憐らし

●天勝は何を爲て居るか

三十日の夜昌德宮殿下が天勝を召されて妃、王族殿下、貴族、李王職員等と共に其奇術を樹はしたることは既報の如くなるが天勝の一行に取りて非常い

▲宵夜待た春の獨寢▼

數日前の事記者は未だ薄暗き明けの五時頃仁川宮町は公園下通りを八阪寫眞館の方へ通り抜けなんとせし一刹那路次と見紛ふ待合の出入口年頃は三十位の女の仲居らしき姿を見受けたればハテ面妖なと思はず好奇心に驅られて詮索して見ると山手町は鮮の仲居坂田はるに疑ひはなけれど何やら疑の潜んで居る樣子に苦心の結果に漸く探り當てたるは同夜れはる現在の夫三嗣の叔場の竹さんと腰し合せて互に主人より暇を貰ひ待合の二階でゆつくり樂しみと洒落の幕を滑すべき筈の處件竹さん日據なき用事が出來たので遁據なから契約違反ときたのではるは待ち焦れて居る內何時しか眠氣が催して一さつ夜異に枕は二つあれど矢張一人で寐て仕舞ふたと云ふ仕譯居んな事なら態々出掛せずとも鮮で寐た方がよかつたと後悔しての歸り途を待つて見ても詰らなかりし事どれ弔辭も申上げられず

名譽なれば萬劇場に於けると同樣の意氣込を以て演じ進むこと數番一時間程も經過したる時迄微笑だにせず退

屈相に見て居られた李王殿下突然他を顧みて質問

全体天勝は何を致して居るのかと質問せられた並み居る一同恐懼の餘り暫時は言葉を發する者もなかりしが、やゝありて尹侯は恐る〳〵天勝の奇術師にして此所にありしものを彼所に移し大なるものを小なるもの〻內より出す等の藝を演ずるものなる旨を申上げ前以て說明せざりし不注意の點を御詫び申せしに漸と御合點あり夫れよりは一々說明を附して演じたるに大滿足に覺召され天勝は神なりと先づ讃稱され純銀花瓶一箇、緞子十一卷、金子一封を賜はりたり

●精神病者の縊死

大和町一丁目三百五十一番戶車夫上田九郞內縁の妻阿部はつ(五五)は精神に異狀を生じ去る三十日午後一時半頃居宅四疊半の一室に於て縊死したり

●龍山の赤痢患者

本籍島根縣邑智郡宮原村三百四十一番地當時龍山祝町瑞雲寺僧侶松井料理(二九)は三十日より赤痢病に罹りたるにより直に京城順化病院へ收容さる

●電車人を突飛す

當時住所不定爐軍朴大晋(三五)は三十一日午後六時五十分頃南大門通りに於て電車に突き飛され負傷したり

●女郞と而て監獄

本籍長崎縣南高來郡口野村大字東方百二十五番地永野辰馬(三六)は先年渡鮮し龍山榮町藤田雜貨店の店員となりて忠實に働き居りし處フト心の駒狂ひて本年五月より同店の得意先き並に掛賣代金七十餘圓を胡麻化し橫領着服し逃走の上桃山遊廓萬梅樓並に入船樓に登樓浮れ居りし處を此程龍山警察署の探知する所となり直ちに拘引せられ目下取調中とは身から出た錆と云ふべし

●仁川消防隊に寄贈

去三十日夜仁川濱町の失火に際し消防隊の活動により類燒の難を免れたる大二商會にては消防隊慰勞として金百圓を民團役所を經て寄贈せり

●奇特な婦人

仁川濱町日本湯川本治助の妻りはは三十日の濱町大火につき罹災者へ金二十圓を寄贈せり

●毆打劍傷

南山町三丁目坂洗濯屋服人李大奎(三三)は酒醉の上[illegible]を毆打負傷せしめ南部署に引致され取調中



▲本紙は第二種藝妓の名を申上げることに致し候▲京城樓の袖子は此の間南山町邊を大丸髷で頂いて通行致し居候故何うした事かと聞合せたる所曰く「直ぐ其所ですから寄り下さいまし良人も恰然宅に居りますから」は好かつたね▲井門支店の常枝は小生意氣なスベタ女郞だと貶して居るものがあるが右は大概嘘だらうと申すものも御座候何方が居るやら▲京城樓の千代子は未だ退院せず總督府醫院に淋しい月日を送つて居る相なり、ナンテ可可相なんでしようね▲第一樓本店の若駒は京城病院入院中同病院にチブスにて同じく入院中死亡したる加村某の亡魂を便所にて見たとて夫れ以來大の臆者病となりたる由なるが加村君はロク〳〵若駒に迷ふて居たものは見ね現今でもチョイ〳〵「恨めしいぞや若駒」イヤ怖い事恐ろしい事南無天理王尊▲日曜樓近來の繁昌は全く勉强のれ廉〳〵るが近く大和新地に新築したる家屋に支店開業の計畫中なりとか芽出度いナ〳〵▲清月樓のかるたは商人が一番好きで新聞社の人が一番嫌ひだとアノ愛嬌のある顔をしかめて居り申す▲井門支店の叶枝は義太夫が大の自慢に候とか(郎雀)

●寶六庵の萩

東四軒町同庵園內の萩は今や三分の咲き、ドウ見ても女なりけり粲の袂小いさき萩の花妻なんど〳〵洒落らる〻文人は勿論郊外の秋氣を味はんとせらる〻人々は家族打連れて同庵に一日の淸遊を試みらる〻最も妙但し同庵自慢の栗飯は上戶下戶十人向きの代物

●新町遊廓各妓讀込都々逸

市松

○京城樓○○喜代子○○

來ない筈だよきよまでの頭は
餘所に好いのが出來た主

評「可哀相にチーデモ詮方がないは金錢で買はれた悲だもの

○君の江○此○糸○

たとゑ細くも此糸筋の
どうか二人も末長ふ

評「友白髮の末までも心變るな變りやせぬかす

○鶴○明○石○

痴話や口說で泣きあかし
たまに逢夜を笑顏も見せず

評「隣室の客がボヤいていたのも無理ではない

●臨濟寺の花園

初音町臨濟寺の花園は住僧岡山太道和尙が丹精になるばかりのもの朝顏金冠花江戶菊等凡を二反歩に亙りて咲亂れ男女老幼來り賞するに任かす士曜日曜に同寺を訪ね和尙の法談を聞き合せて花園を賞す中々に妙なり

●演藝だより

▲浪花館 桃中軒雲柳一座は毎夜の大入なるが二日の讀物は雲柳は赤垣源藏及不破數右衞門の長講二席なり
▲大石東下(柳若)田宮左金吾(燕太郎)左甚五郞の傳(千里庵八千代)靑年立志(花園祭)
▲壽座 片岡鶴之助一行の浪花節芝居觀音丹次を引續き演ずる由なり
▲仁川歌舞伎座 天勝一座の大奇術
▲歌舞伎座 大活動寫眞及キチオラフ
▲龍山座 宮岡天外の大奇術



▲京城南大門外の木村あし子さんは下女を相手取つて告訴をして居る顔に通はぬ剽樣なり(通行人)▲滿韓日報三南新聞の兩紙は何回斷りても依然投込で行くが夫れで紙代を徵集するのであらうか回答を求む(恐怖生)▲敷うばの本店は此頃客の待遇が惡くなつたモヽ、リを食ふ客と「ザル」を食ふ客とは分け隔てをする主人注意せよ(盛食生)▲浦尾旅館は主人も番頭も女中も皆親切だが只た一人オコマとか云ふ手人の親類だとか云ふ奴の橫暴さは驚入の他はない(ケーオー生)▲旭町の〇丁目の某宿屋は數多の下宿人を置きながら三度の食事が何故惡いだらうかね(ウウン生)▲町田支店々員の客扱は實に感心だ哩(俊太)▲南山町の出火が早く鎭火し我々類燒を免れたるは全く總督府の消防掛が最先に驅着け盡力せられたからである當夜出馬せられたる田中掛長以下の各位に對し感謝します(南山町一住民總代)▲他の消防隊には感謝せんのですかね貴君は提灯を點けるのが拙いよハヽヽ(小僧)▲當地に普通文官試驗受驗者に必要なる學科を授くる學校樣のものはありませんか(希望生)▲先夜の提灯行列の內に〇の中に八の印を附けた商店の眼の飛び出た鍋は一等だつたなアレは全体何處の商店か(感心生)▲櫻家旅館の女將に忠告す冷血無情云々の投書は沒(係)▲色魔原田云々の投書は偵探中(係)▲鮮人巡査は消路警戒に從事中口で云つても退くものを矢庭に押したり突いたりし猶亂暴なぞは鞭で蹴飛ばすのもある敢て何署管內とは申さぬが日本人巡査中にもある斯くして警官と人民との間に深い〳〵溝渠を作りつ〻あるのだと云ふ迄もなく警官は人民を取締るものではなくして保護す可き職にあるのだと云ふことに思ひ及んで貰ひたい(通行人)▲至極御尤の說であります(係)▲新町遊廓樓主の不當請求事件!!まるで裁判事件の樣だらう事實は新町で遊ぶと小物代として一人前十五錢といふ大金を徵發される事夫のみならず其上に茶代として二十錢をせしめられる事だ茶は來客に對し當然贈呈すべきもので一般商人間に昔より式來となり居るもの又前記小物代は拂ふ人も何やら明らず取る方でも何代か分らぬらしいア冬期なれば煖爐代とでも言ひ又思ひもするが此頃の暑さで豈夫に圍爐代でもあるまいに此小物代が五人連なれば五人分三人連れなれば三人前付け出して取られる實に不思議な譯がどシミツ垂れを言上する次第じやが一度當局君にも話合て見て與給へ(遊治郞)

[illegible]